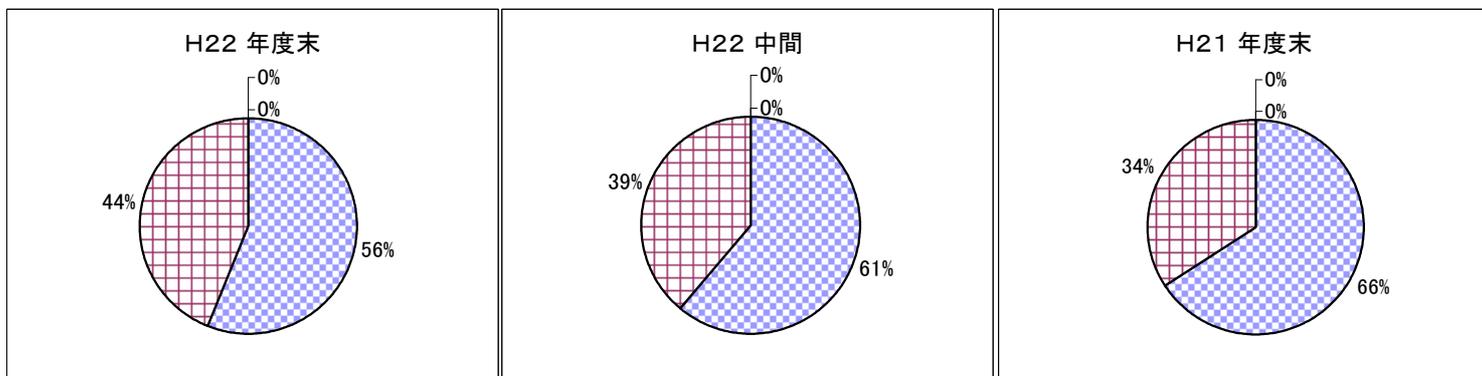


平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

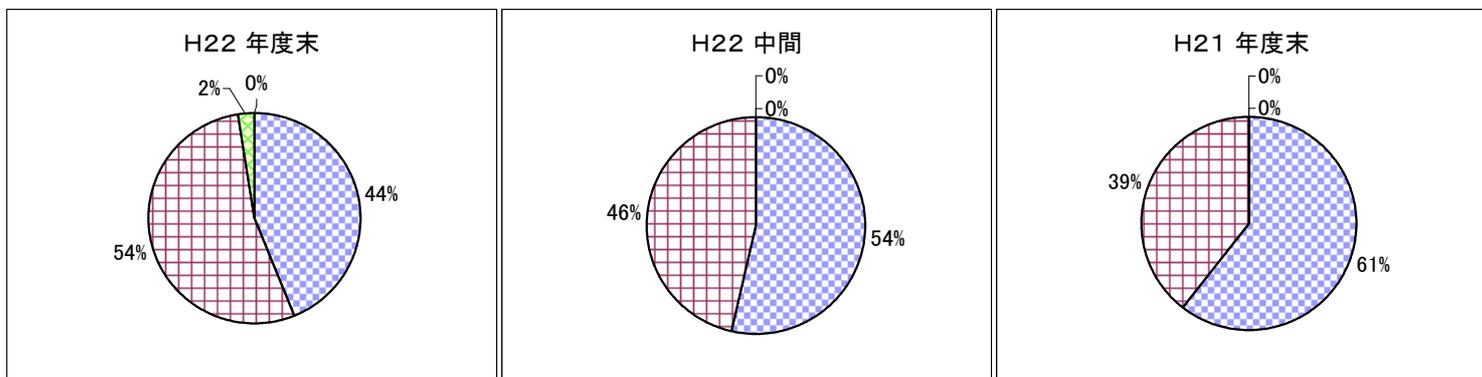
平成23年3月1日
学校評価委員会



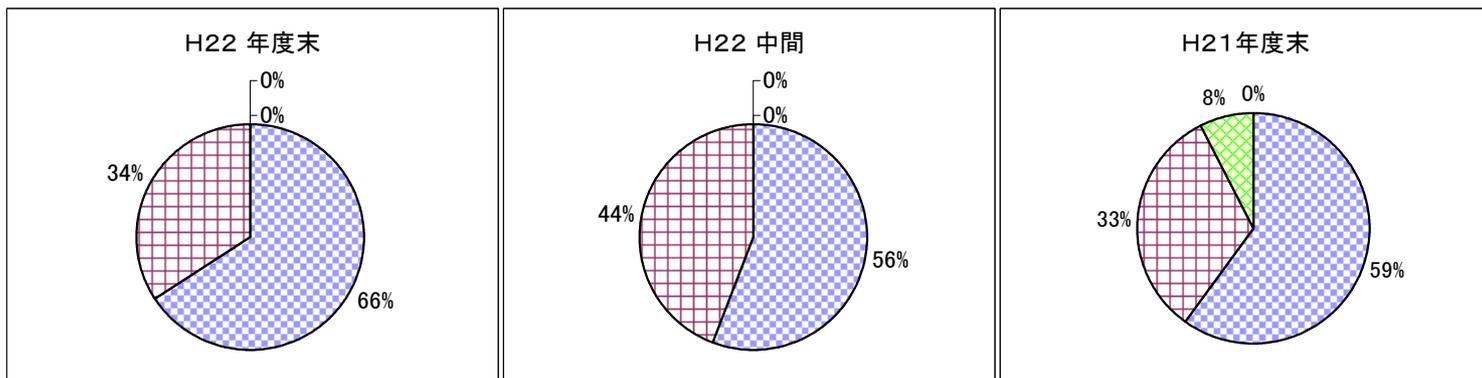
1 教育的愛情で接し信頼される教師をめざしている



2 教育者としての力量向上に努める教師をめざしている



3 互いに協力できる温かさのある教師集団をめざしている



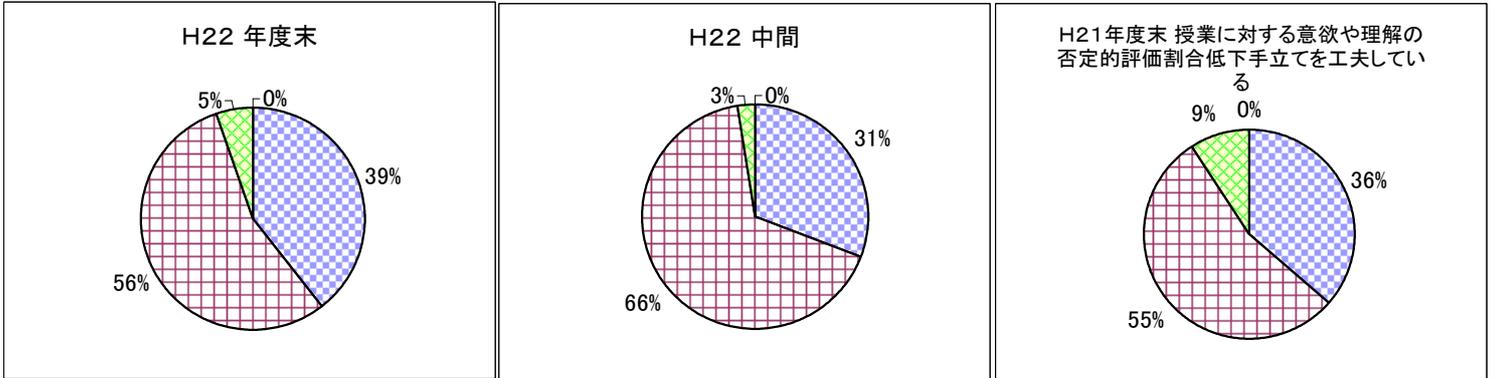
めざす教師像の3項目における肯定的評価割合を比較してみると、中間評価時点では100%を達成していたが、力量向上をめざす項については、ごくわずかではあるが否定的評価がみられた。協力できる教師集団で「大変そう思う」の割合が中間評価・昨年度評価と比較して10ポイント程度向上している点は成果として評価できる。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

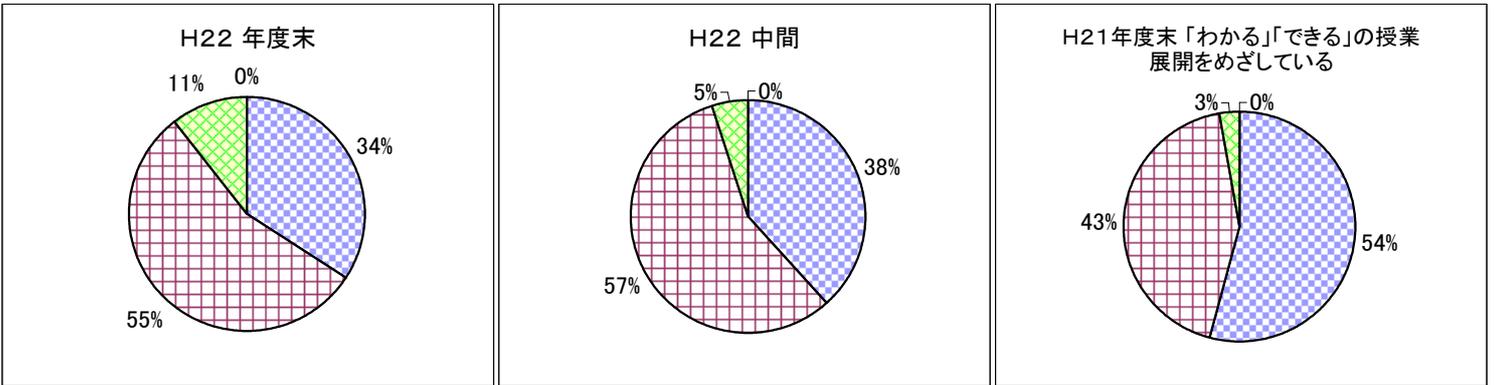
平成23年3月1日
学校評価委員会



4 授業が「よく分かった」「意欲的に取り組んだ」という生徒の肯定的評価85%以上にするための手立てを工夫している

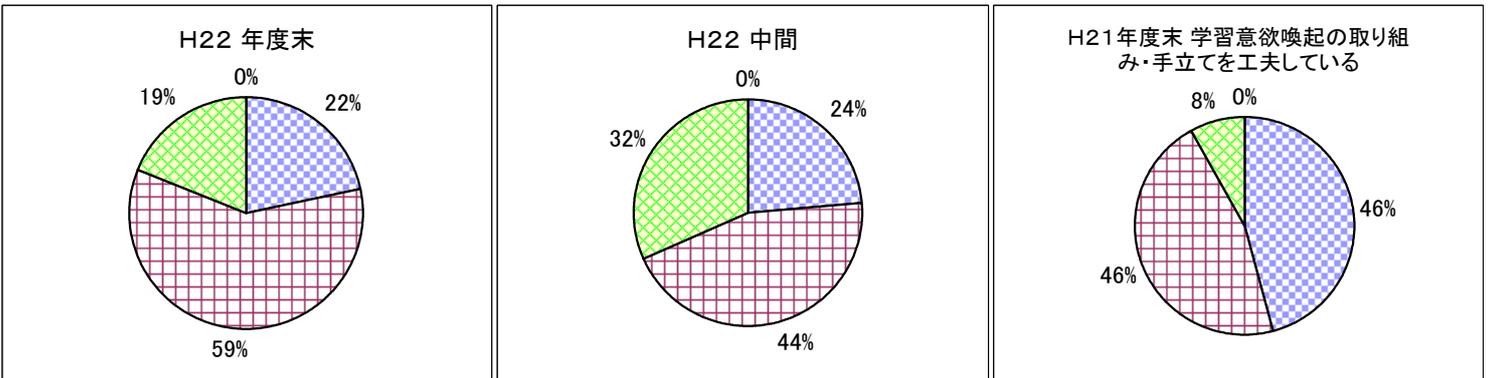


5 「よく分かる授業の創造」をめざした授業改善を図っている



「よくわかる授業の創造をめざして」という研究主題に基づき、校内研修や授業交流、カンファレンスを実施してきた。しかしながら、中間評価と比較すると否定的評価割合が増加している点が課題である。

6 ICT活用等により、生徒の学習意欲の維持向上を図っている



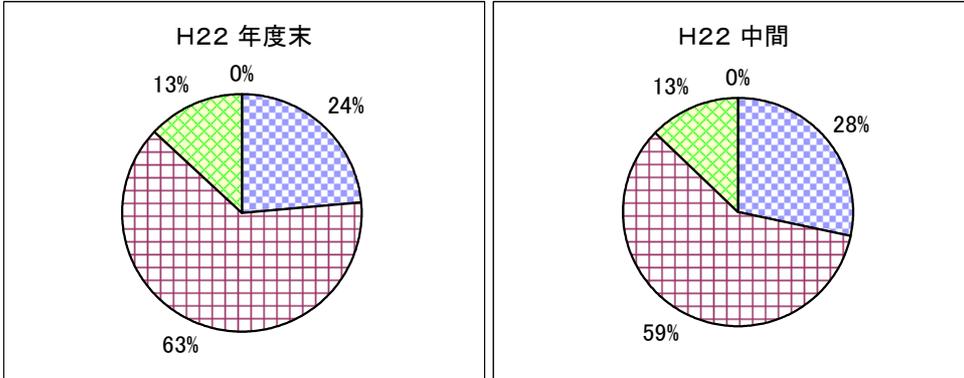
授業におけるICT活用率は、中間評価と比較して向上し、80ポイントを上回った。ICTサポート員が配属され、日常の個人研修を通して成果へとつながっている。学習効果を高めるためのツールとして、ねらいを明確に今後も積極的に取り入れていく相互研修を継続していく必要がある。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

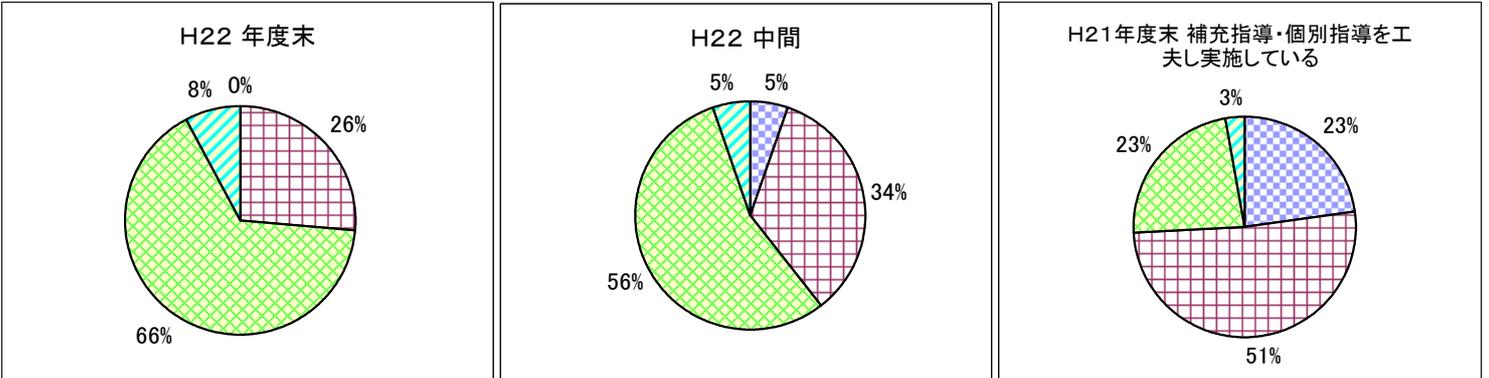
平成23年3月1日
学校評価委員会



7 授業以外の時間に分からないことを質問できる雰囲気と環境を作っている

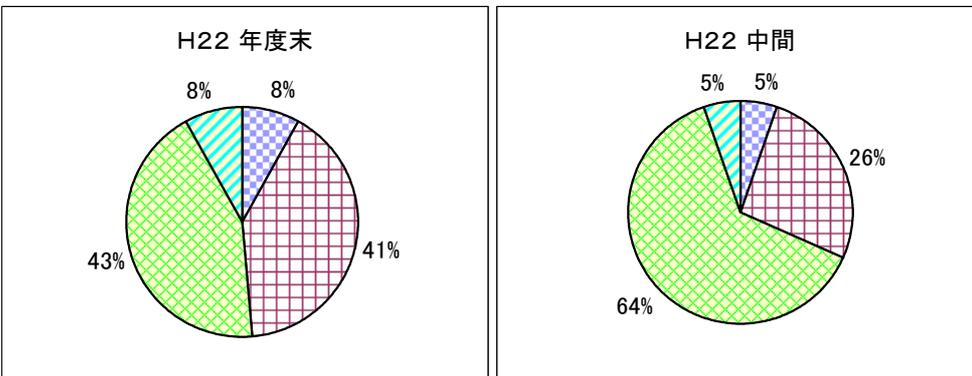


8 週1回1時間の個別・補充学習の機会設定と長期休業中の認知カウンセリングの機会を設定している



生徒評価からもうかがえるが、個別指導や補充指導の機会が少ない。教師自身の自己評価においても肯定的評価割合が減少している。補充指導に携わる教師の時間確保が難しく、この改善を図るうえでも、次年度は「大学生による学校支援活動」事業も活用していきたい。併せて、長期休業中における学習に関する認知カウンセリングも今年度に引き続き実施したい。

9 現行家庭学習の手引きを改善しようとしている



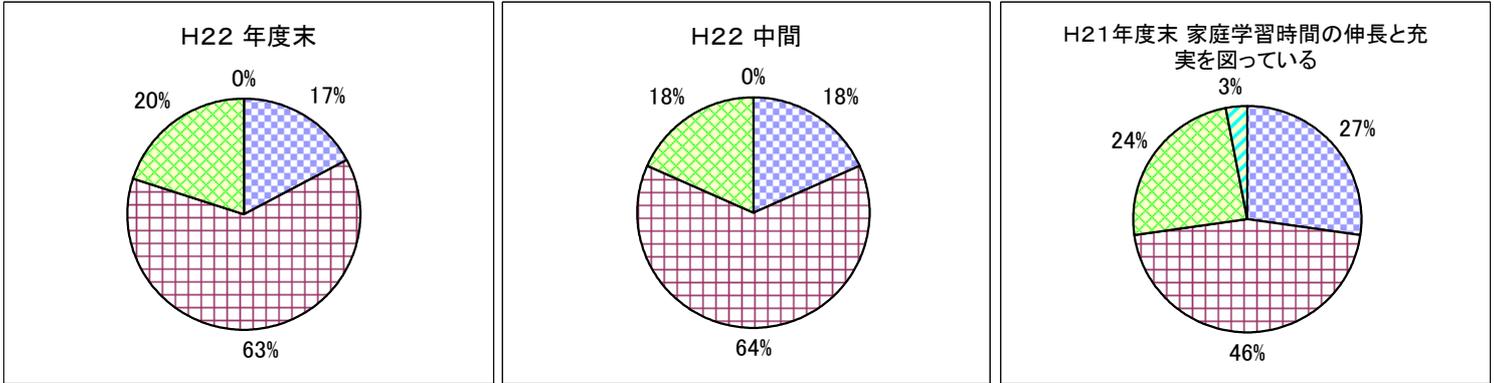
生徒自己評価の結果からみると、家庭学習時間が0～1時間の割合が41.4%であった。また、予習・復習等の家庭学習をしっかり取り組んだという肯定的評価割合をみると国語62.2%、社会82.7%、数学81.8%、理科74.6%、英語80.5%という結果であった。国語や理科の家庭学習方法支援が必要に思える。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

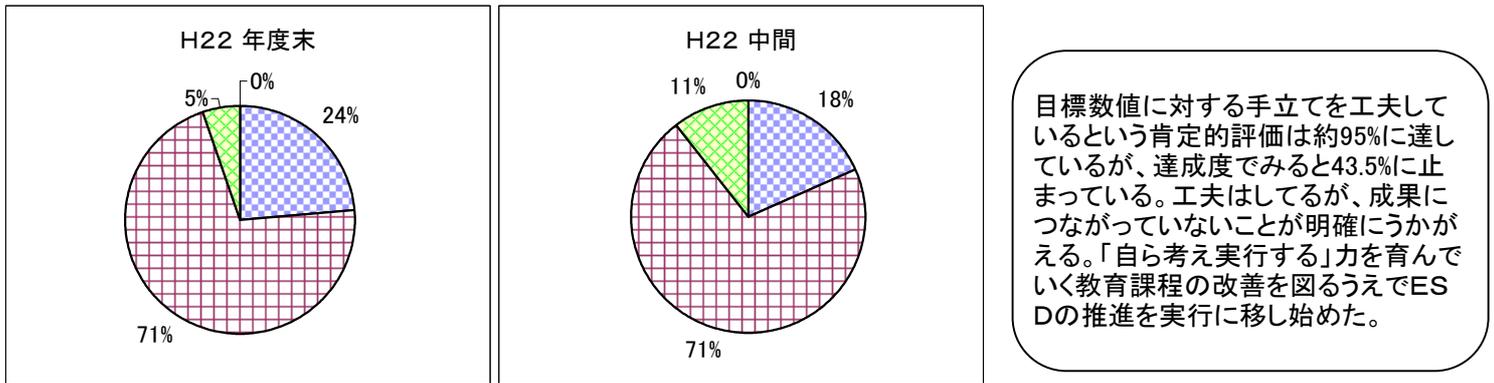
平成23年3月1日
学校評価委員会



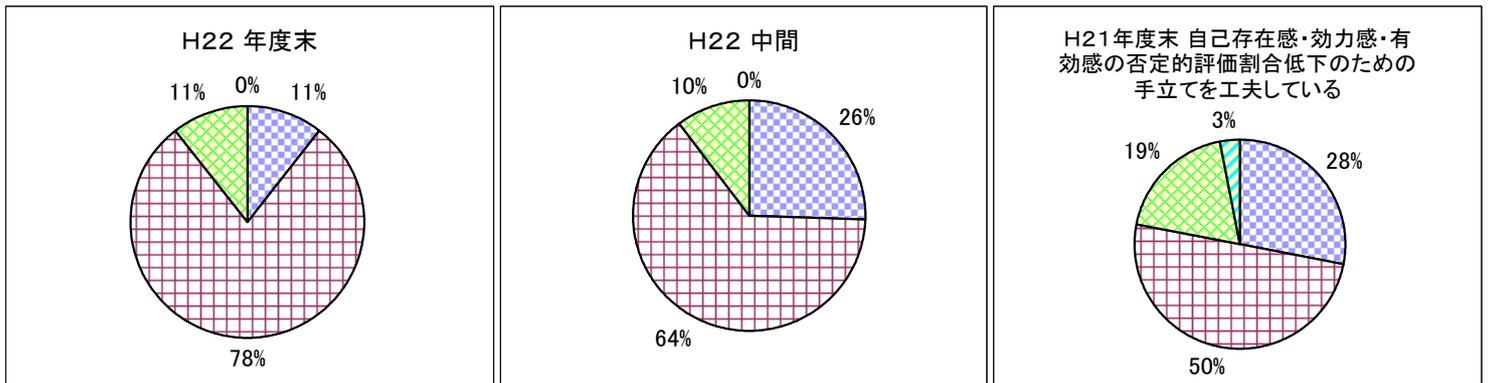
10 取り組みの良さを共有し、家庭学習の習慣性と実践力を高めている



11 自ら考え実行する生徒の育成における教職員及び保護者の肯定的評価を50%以上にする手立てを工夫している



12 生徒自己評価による自己存在感、自己効力感、自己有用感の否定的評価割合 各15%未満、25%未満、45%未満をめざしている



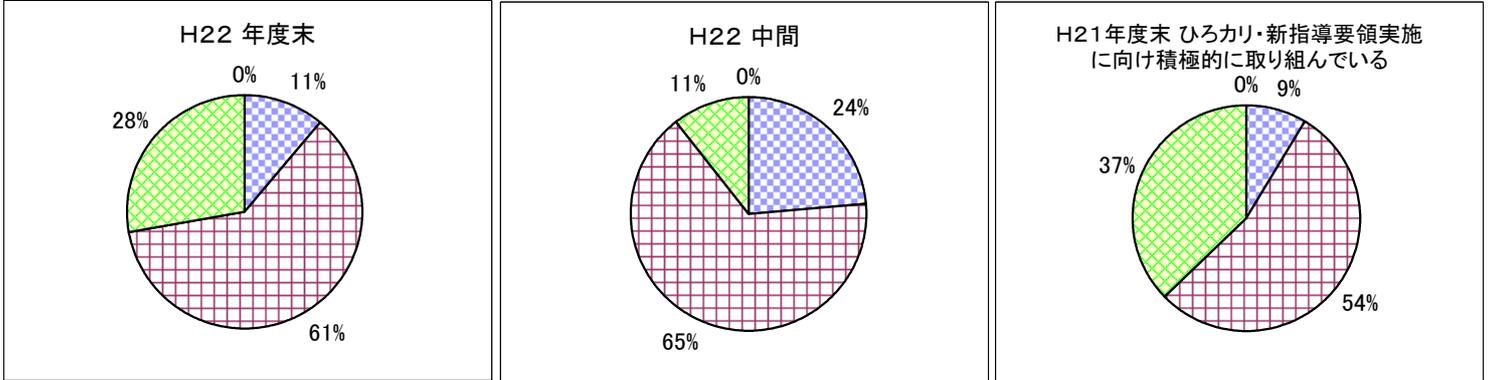
教職員評価では、数値目標をめざす点において肯定的である。生徒自己評価の結果では、自己存在感、自己効力感、自己有用感それぞれの否定的評価は、20.5%、27.7%、46.1%という結果を示した。自己を肯定していく「3つの感」の育成が引き続きの教育課題となる。課題解決のための手立てのひとつにESDを設定している。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

平成23年3月1日
学校評価委員会

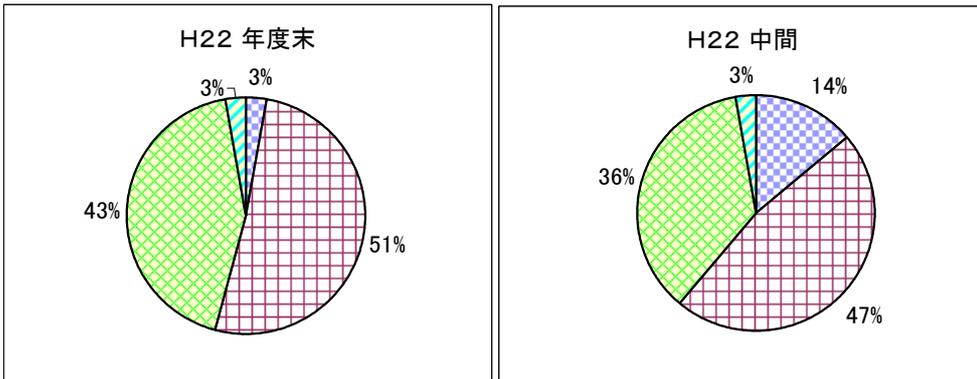


13 言語・数理運用科の適切な実践を通して、考えることのおもしろさや他の考えとの交流の楽しさを生徒に実感させている



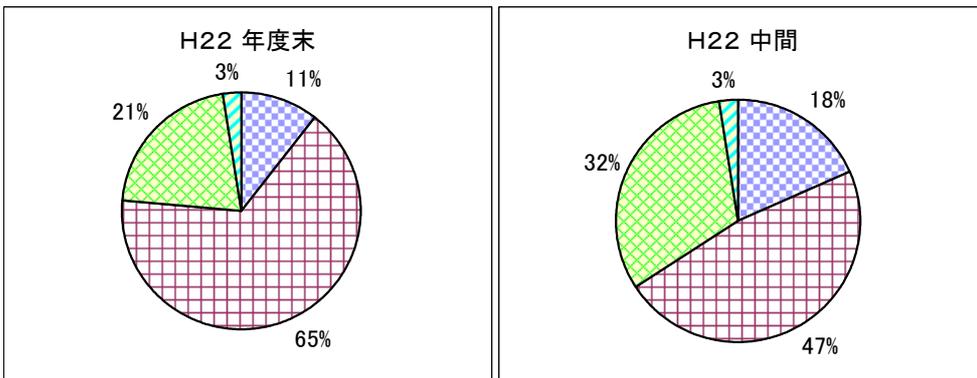
生徒自己評価における肯定的評価割合は、中間評価で61.6%、年度末評価で56.7%という結果を示した。教師の自己評価結果からもうかがえるように、教師の授業に対する意気込みが生徒の自己評価結果に結びついている。日々の多忙感もあるが「思考力・表現力の育成」を各教科で意図的・効果的に仕組んでいく改善をめざしたい。

14 LST、協同(グループ)学習等を取り入れ、人間関係づくりの実施等を通して3つの感を高めている



今年度の生徒指導推進計画でLST(ライフスキルトレーニング)を後期に導入していく計画であったが、計画通りの推進に至らなかった。来年度は、教職員向けの校内研修を計画実践し、特別活動等に導入していく必要がある。グループ学習も授業の基本スタイル2-5-2の浸透化を更に進め、授業改善の視点でとらえる必要がある。

15 全教科・全領域にESDの内容を取り入れ、カリキュラムの編成と実践を行っている



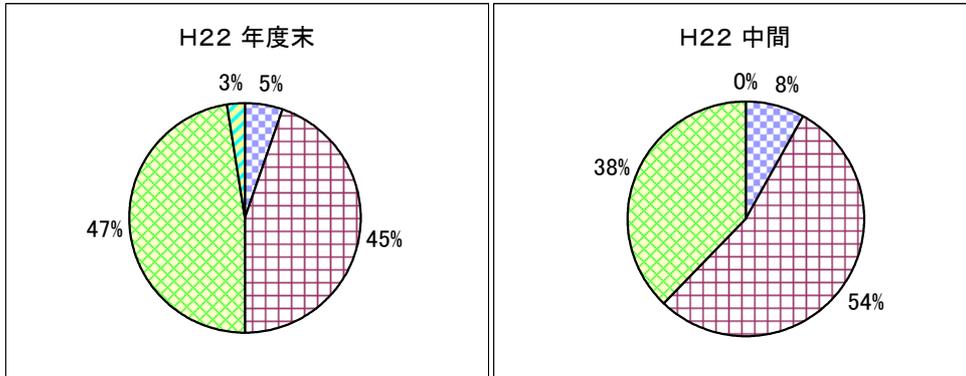
中間評価と比較して、総合的には肯定的評価割合が、10.5ポイント向上し、全体の76.3%に達した。今年度は、国際交流としての発信や食料、平和、環境問題等に関するレポート作成などの活動を行い、次年度以降に向けたESDシステムマップ、ESDカレンダーを作成したこと、ユネスコスクールへの加盟申請等、経営計画にそった取り組みが成果といえる。課題としては、全体化・組織化が弱かった点である。この改善へ向けて、推進部署の組織改革が必要である。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

平成23年3月1日
学校評価委員会

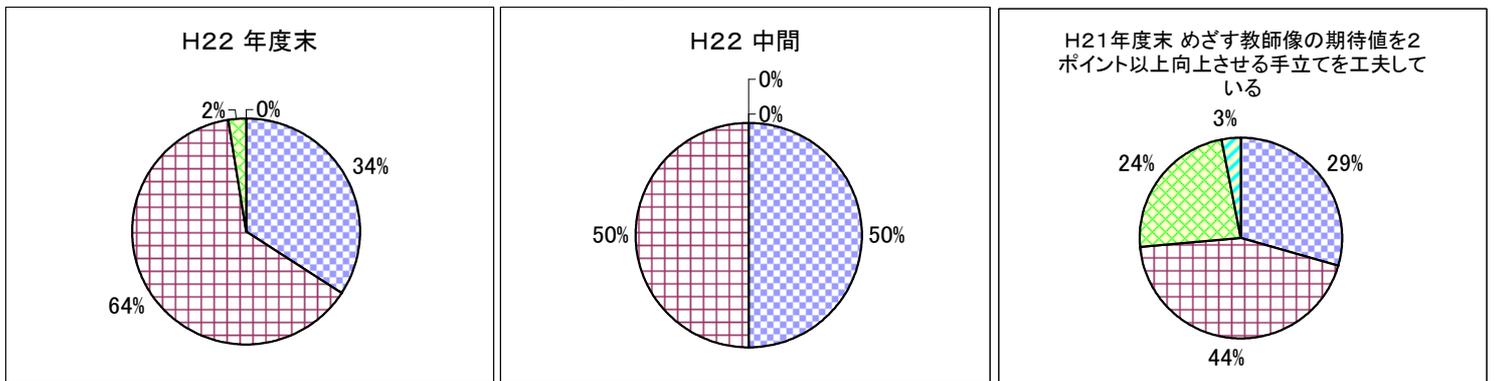


16 図書室利用及び読書の1ヶ月1冊未満の生徒を0%にするために、全教職員で読書活動の充実を図っている



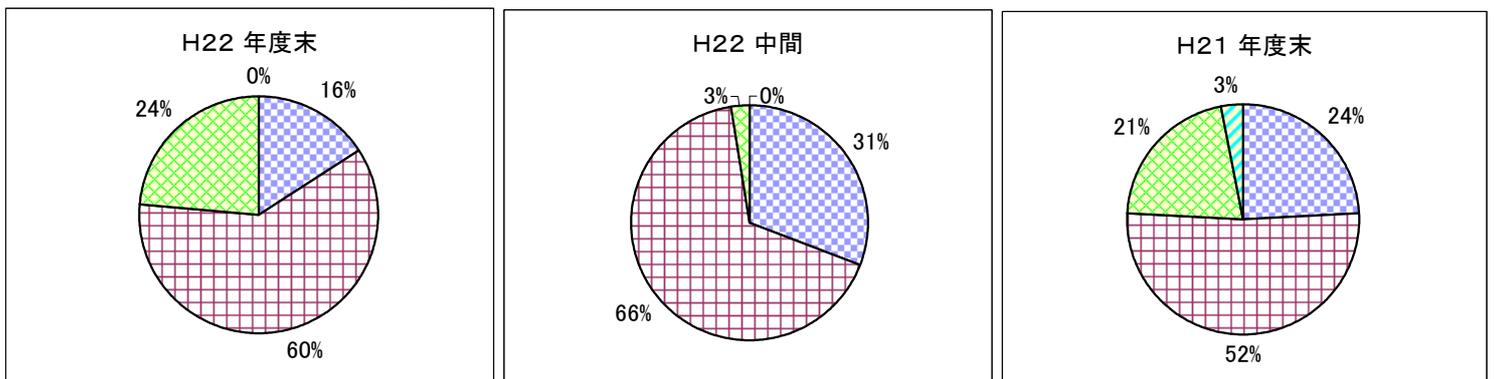
図書館アシスタント、司書教諭を中心に図書室利用啓発を行い、生徒会図書委員会においても読書実施状況を発表する取り組みを行ってきたが、全教職員で読書活動の充実を図る取り組みが十分でない結果となった。校内推進を更に深めていく手立てが必要である。

17 めざす教師像における3項目の肯定的評価100%をめざしている



中間評価では肯定的評価割合100%を達成していたものが、最終的にはわずかに目標数値を下回った。「大変そう思う」という肯定的割合も16ポイント下回っている。自信を持って「力量向上をめざしている」という評価が後退したためであるが、モチベーションの高揚及び授業力を高めていくための研究推進体制の改善を図るとともに、校務推進のスリム化も一考慮となる。

18 特別支援教育の視点に立ち生徒実態を把握し、個別の指導計画の作成・共有化を図り、予防的生徒指導の推進を図っている



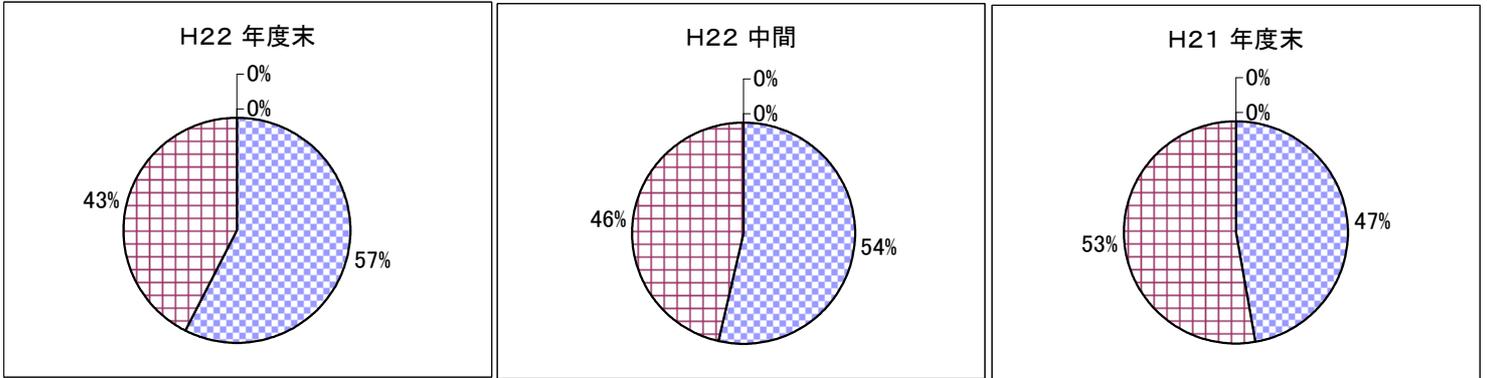
中間評価では、昨年度を上回り肯定的評価割合が97.44%を占めていたが、最終的には「大変そう思う」という評価が昨年度を下回る結果となった。個別の指導計画は作成しているものの、進捗状況の確認や指導の見直し等を特別支援教育委員会を開催しての取り組みとなっていないことが課題として見受けられる。

平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

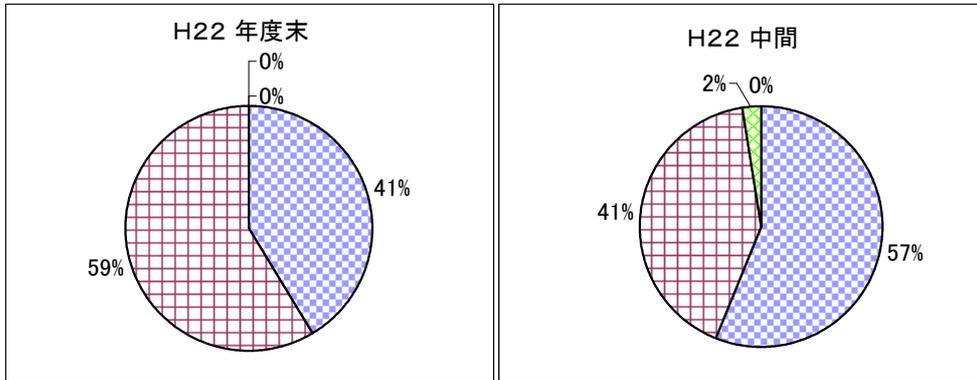
平成23年3月1日
学校評価委員会



19 生徒一人ひとりを大切にした教育を展開している

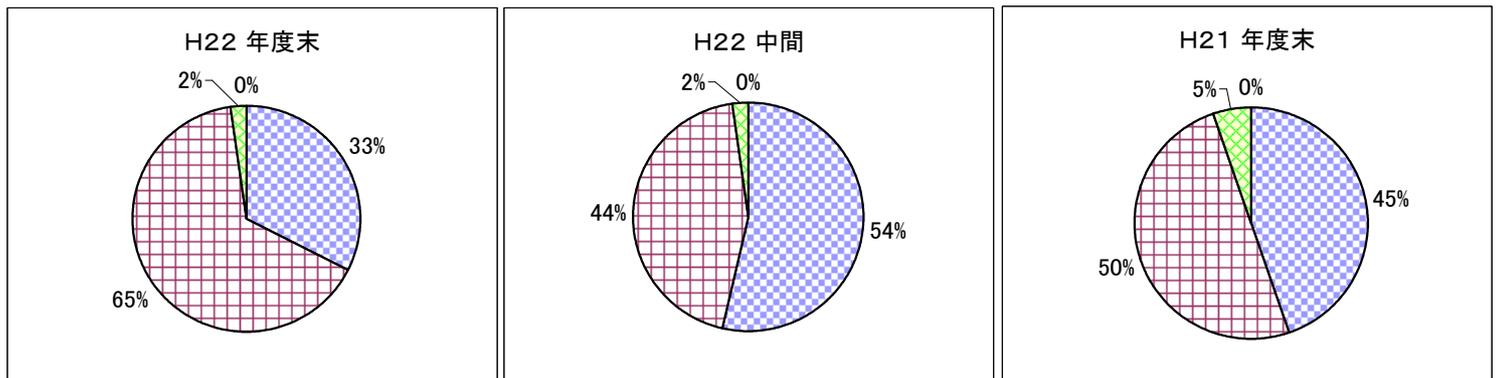


20 教職員全員の協力を通して、落ち着いた学習環境を生徒に保障している



中間評価と比較して、肯定的評価割合が100%に達した。しかし、「大変そう思う」という割合が50%を下回っている。生徒指導の申し合わせ事項に掲げている内容も含め、教室環境・学習環境の整備、徹底化を図る必要がある。

21 各自が自己の役割や責任を果たしている

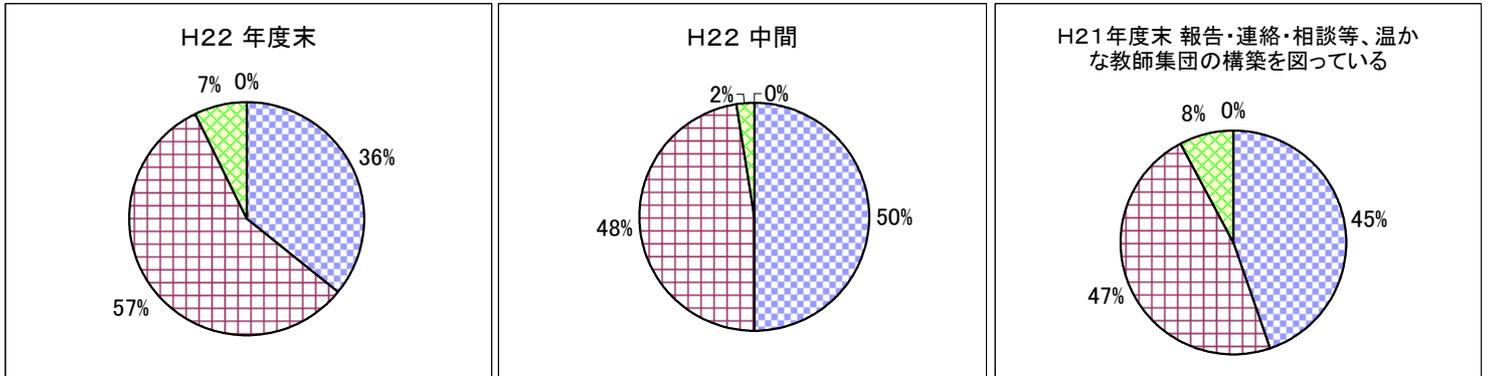


平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

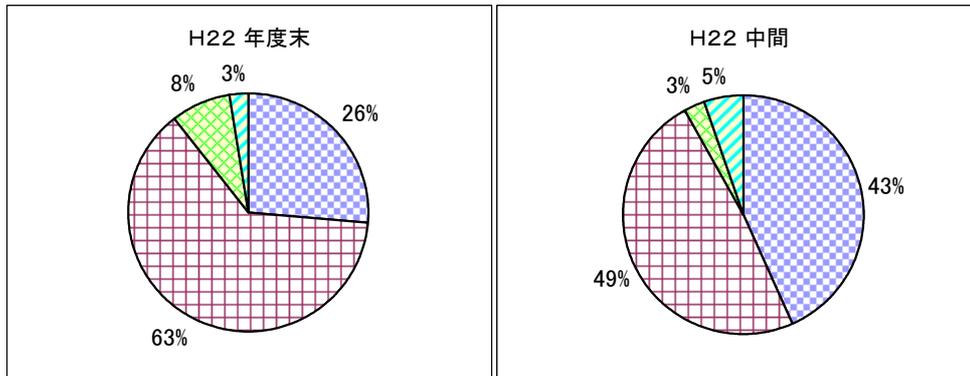
平成23年3月1日
学校評価委員会



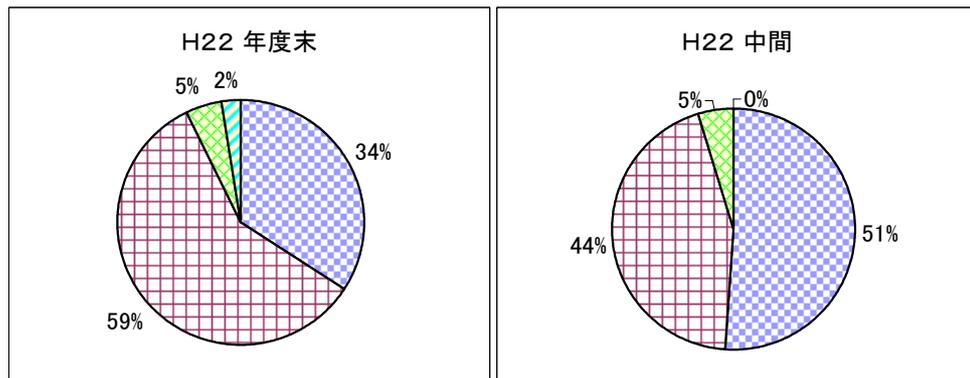
22 部署をこえての情報交換や報告・連絡・相談等、協力し合える温かな教師集団の構築を更に推進している



23 部活動での生徒との量的・質的な関わりを通して、生徒の健全な成長を図っている



24 お互いの健康に対して、平素より相互に心配りを行っている

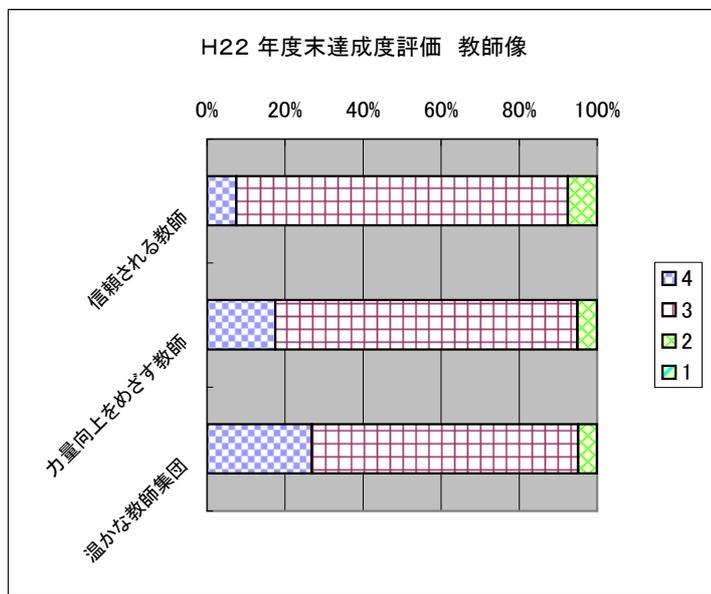
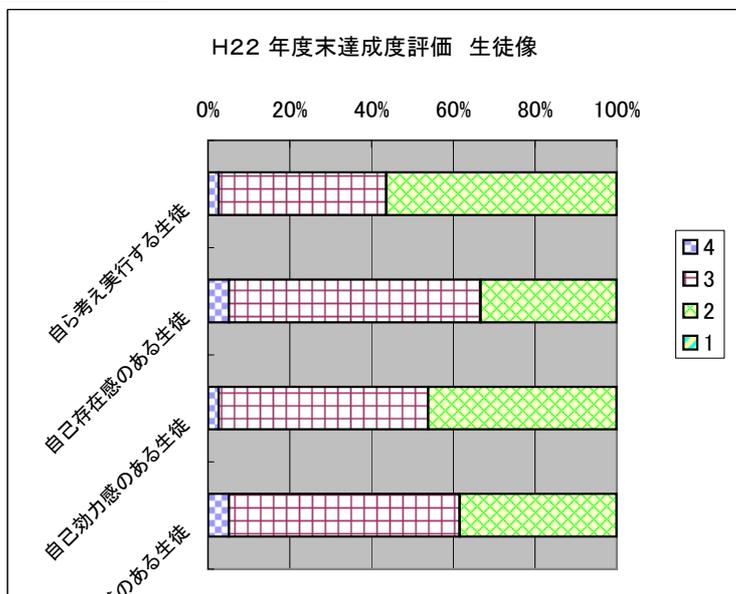


平成22年度 学校評価 教職員自己評価アンケート結果(2月)

平成23年3月1日
学校評価委員会

- 大変そう思う
- まあまあそう思う
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

達成度評価



生徒の像の達成度評価をみると、肯定的に評価している割合の平均は、56.4%となっている。中でも、「自ら考え実行する生徒」の43.6%程度であり、50%を下回っている。「考え、実行する力」を育成していくことが引き続き課題となる。思考する場の仕組みを各教科、ESD、言・数科、行事、部活動等で意図的に設定していく必要があり、さらに、それぞれの「像」における具体的な姿を設定し、検証していくことが必要である。

教師像の達成度自己評価において、「信頼される教師」の項で「大変そう思う」の割合が7.5%と著しく低い。教師自身、自分なりに課題を感じている点がかがえる。生徒像と同様に、具体的な姿をめざすスローガンを掲げ、実践していくことが必要と考える。